

取扱説明書



この度はPIVOT SML-Vをお買い上げ頂きありがとうございます。
お取り付け、ご使用前には必ず本説明書をお読み頂き、装着後も大切に保管してください。
なお、説明書の再発行は有償となります。

内容物を確認します



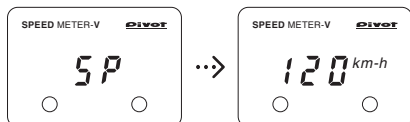
警告 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。		
禁止 換気の悪い場所で作業しない 排気ガス中毒や引火等で人体への危険があります。	強制 バッテリーの⊖側を外して作業する ショートなどによる火災、破損事故の恐れがあります。	禁止 コードの被ふくを傷付けない シートレール、ドア等でコードの被ふくが傷付くと、ショート、接触不良等による火災の危険があります。
強制 製品は安全な場所へ確実に固定する 使用中に製品が外れブレーキなどに挟まると運転操作が狂いやすくなる危険です。	強制 配線はテープなどで収納する 使用中に各配線が絡まると運転操作に支障を来し、無理に引っ張るとショート等の原因となり、大変危険です。	禁止 運転中に操作をしない 運転中の製品操作や表示確認は事故の原因となりますので、安全に十分配慮してご使用ください。

注意 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性と製品その他に物質的損害が発生する可能性があります。		
強制 配線に不安のある場合は専門ショップへ依頼する 製品装着には専門知識を必要としますので、不安な方は専門ショップ等にご依頼ください。	強制 DC12V車で使用する 本製品はDC12V車用でそれ以外の電圧には装着できません。	禁止 エレクトロタップは使用しない 配線は付属のカットギボシまたは半田付けで行い、配線部は絶縁テープで確実に絶縁し、芯線等が突き出していないかを確認してください。
分解禁止 加工・分解および改造をしない	禁止 高温となる場所や水のかかる場所へ装着しない 故障の原因となります。	禁止 眩しく感じる場所へ装着しない
禁止 装着直後は製品に強い力を加えない 両面テープによる製品固定は装着初期ははげやすくなっていますのでご注意ください。	強制 ネジ・部品は元の状態に戻す	

SML-Vでできること

1. スピード表示

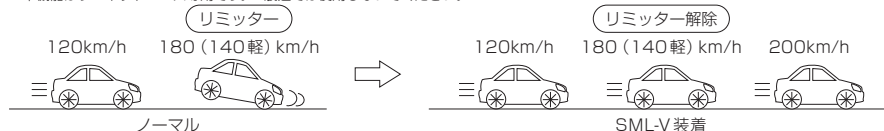
最高350km/hまで、1km/h単位に高精度表示します。



2. スピードリミッター解除 (スピードリミッター解除対応車のみ)

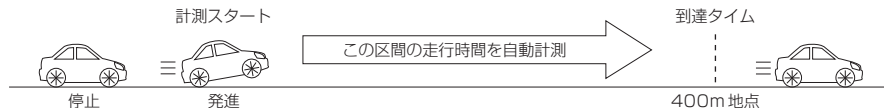
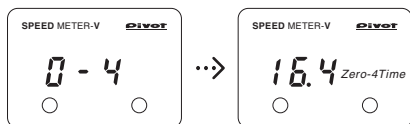
180km/h (軽自動車 140km/h) で作動する速度リミッターを解除できます。

※本機能はサーキットコース専用です。一般道では使用しないでください。



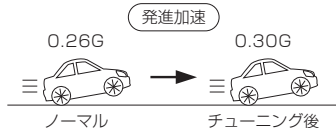
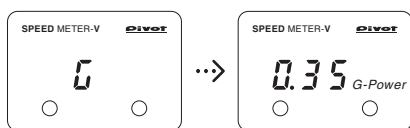
3. ゼロヨンオート計測

設定距離までの加速時間を自動計測します。(設定距離：400m / 300m / 200m / 100m)



4. 加速G・減速G表示

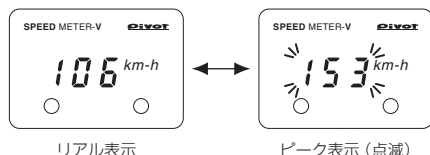
前進、ブレーキ時の加速度を0.01G単位に表示し、トルクやブレーキ性能変化がわかります。



減速G表示時は最下位ドット点灯

5. リアル／ピーク表示

実際の走行に応じたリアル表示とキースイッチON以降のスピード・加速G・減速Gの各ピーク値をワンタッチで切り換えて表示します。



6. その他の特長

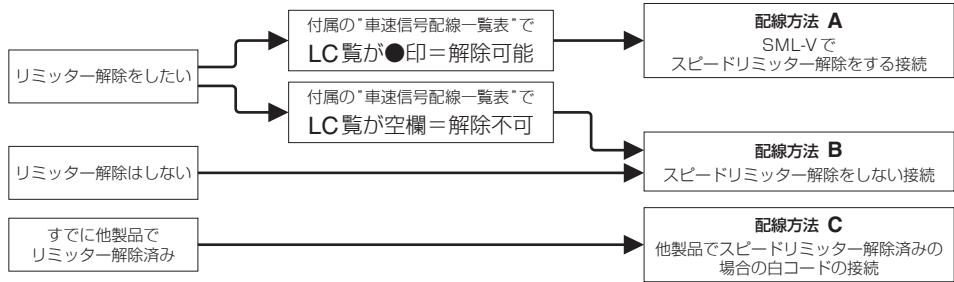
- スケルトンブラック……表示はスケルトンブラックケースから浮かび出ます。
- 幅広い対応車種………軽自動車からスポーツカーまで。
- コンパクトデザイン………小型ワンボディ本体は取付場所を選ばず装着可能。

配線接続方法

準備

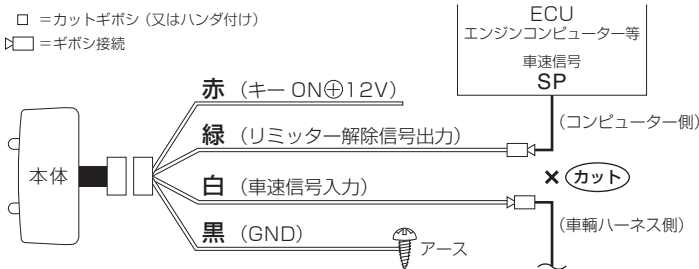
- 作業を始める前に付属の「車速信号配線一覧表」で下記の項目をご確認ください。
 - 取り付けるクルマの車速信号 (SP) 位置
 - 取り付けるクルマの LC 覧の表記
- 配線方法は主に3通りありますので、右のチャートを参考にどの方法で接続するか選択します。

⚠ **LC 覧が●印** の車種以外のクルマで (配線方法 A) 「リミッター解除をする接続」を行うと不具合が出る場合があります。



配線方法 A SML-V でスピードリミッター解除をする接続

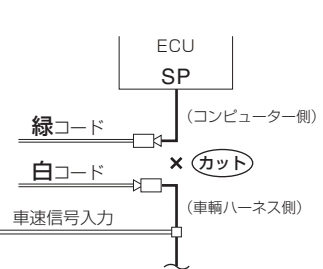
⚠ ナビ用オプションカプラー等へこの接続をしても解除できません。



ナビゲーション等と一緒に取り付ける場合

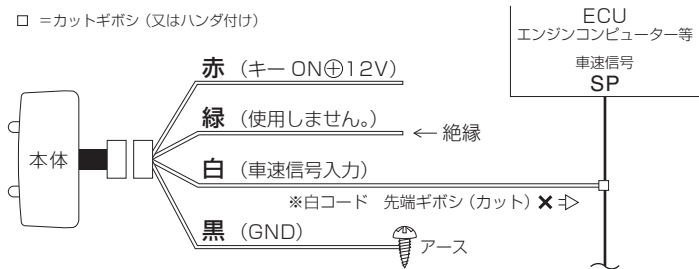
カットした車速信号 (SP) の車輻ハーネス側へ接続してください。

ナビゲーション等



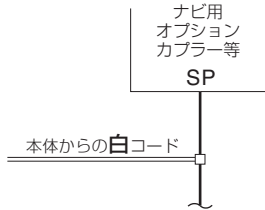
配線方法 B スピードリミッター解除をしない接続

⚠ リミッター解除が可能であっても解除が不要な場合はこちらの接続をしてください。



ECU 以外 (オプションカプラー等) で車速信号を接続する場合

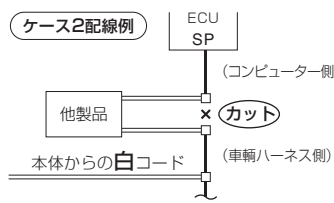
赤・緑・黒コードの接続は左図に従って行ってください。



配線方法 C 他製品でスピードリミッター解除済みの場合の白コードの接続

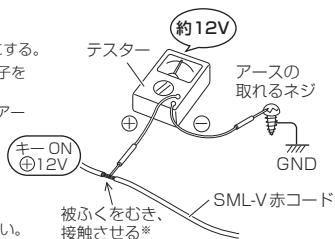
赤・緑・黒コードの接続は、必ず (配線方法 B) 「スピードリミッター解除をしない接続」に従って行ってください。

- ケース1 コンピュータ本体の書き換えで解除されている場合 = 白コードを車速信号 (SP) へ接続。
- ケース2 車速信号をカットして接続する方法で解除されている場合 = カットされている場所よりも車輻ハーネス側へ白コードを接続。(右図参照)
 *コンピュータ側へ接続すると、SML-V の表示に不具合が発生する場合があります。



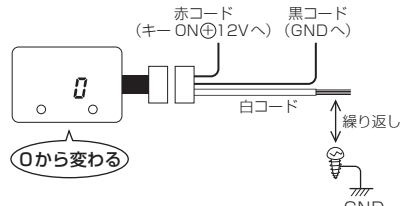
【参考1】赤コード接続状態の確認方法

- テスターを用意し、DC12V の計測できるレンジにする。
 - 赤コードの途中の被ぶくをむき、テスターの ⊕ 端子を接触させる。
 - テスターの ⊖ 端子はアースの取れるネジ (ボディアース) に接触させる。
 - キースイッチを ON にする。
- ・約 12V 流れる → 赤コードの接続状態良好。
 ・約 12V 流れない → 接続場所の不良又は接触不良。
 *確認後、被ぶくをむいた箇所は必ず絶縁してください。



【参考2】スピード表示変化の確認方法

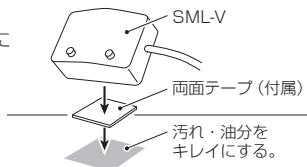
- 赤コード・黒コードは確実に接続し、キー ON にする。
 - 白コードの先端の被ぶくをむき、導線 (あるいはオスギボシ金属部) をボディアースにある程度連続して接触/離すを繰り返す。
- *SML-V のスピード表示が 0 から変われば正常です。0 から変わらない場合は車速信号を接続した配線等をもう一度お確かめください。



本体を取り付ける

車内の見やすい場所へ取り付けます。

- モニター本体と本体を取り付けたい場所の汚れや油分等をキレイにします。
- 付属の両面テープにて確実に取り付けます。



⚠ 貼り直しは粘着力が低下するので行わないでください。

オス・メスギボシの使い方

- かしめるコードの先端を 8mm 位むいて芯線を折りたたむように太くする。
 - カバーを通しておく。
 - 圧着部にコードをセットする。
 - 内側の圧着部と芯線を確認にかしめる。
 - 外側の圧着部を被ぶくの上からかしめる。
- 注. オス・メスギボシは接続後オスカバーがメスカバーの内側へ入り込むようにしっかりネジ込んでください。

カットギボシの使い方

*半田付けができる場合は行ってください。

- 接続するコードの被ぶくを 10mm 位むく。
 - 接続したいコードの被ぶく先端を 10mm 位むく。
 - 被ぶくをむいた箇所をしっかりとめる。
 - 確実にかしめる。
- *かしめには圧着工具を使用し、工具がない場合はペンチ等で折りたたむようにしっかりかしめてください。
 *かしめ後は、ビニールテープ等で確実に絶縁をしてください。

各部の名称とはたらき

1 表示部

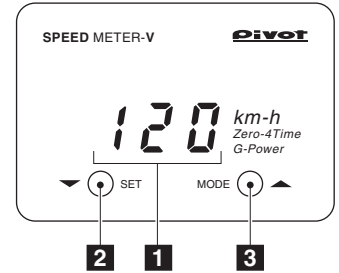
スピード・加速G・減速G・ゼロヨンタイムのデータや、設定内容を表示します。

2 SETスイッチ (▼)

リアル表示/ピーク表示の切り換えをしたり、ゼロヨンオート計測の設定距離を変更します。

3 MODEスイッチ (▲)

リアル表示を切り換えたり、パルス設定モードへ移行させます。



車速パルスを設定する

取付が終わったら、クルマの車速パルス設定をします。

1 キースイッチをONにする

・Pivot (Pivot) 2回スクロール表示後、スピードのリアル表示に切り換わります。

2 MODEスイッチを3秒間長押しし、設定モードへ移行

・リアル表示中、MODEスイッチを3秒間長押しし、PL5を表示させます。
・約2秒後、現在の設定に切り換わります。

⚠ 3秒間操作をしないと設定が終了し、自動的にリアル表示に切り換わります。

3 SETまたはMODEスイッチを押し、パルス数を合わせる

・SETスイッチ (▼ダウン方向) またはMODEスイッチ (▲アップ方向) を押し設定したいパルス数に表示を合わせます。

・3秒間操作をしないと設定が完了し、自動的にリアル表示に切り換わります。

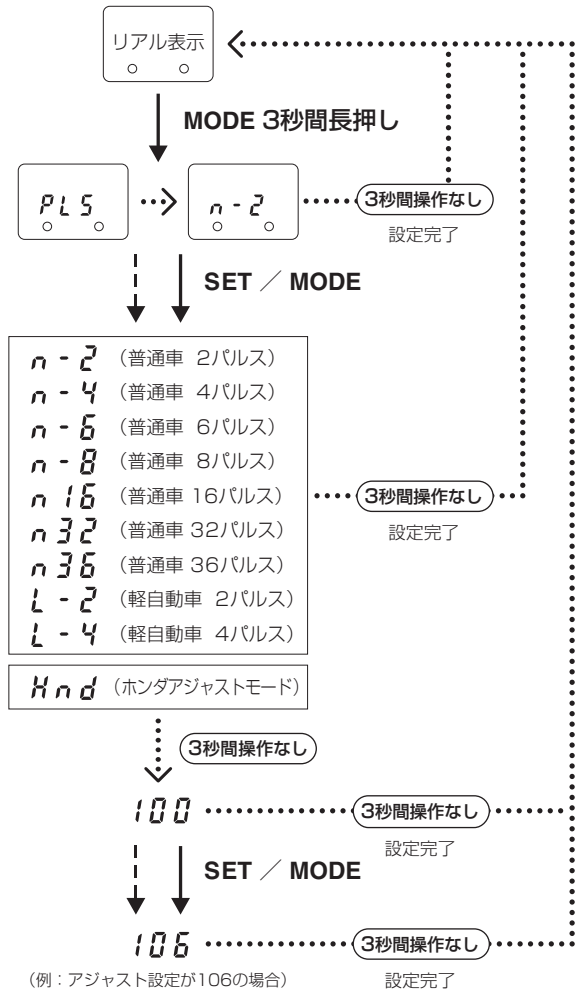
参考：一般的に、日産車は 普通車＝普通車2または8または16パルス、
軽自動車＝軽自動車4パルス、
日産車以外の国産車は 普通車＝普通車4パルス、
軽自動車＝軽自動車4パルスです。

備考 ホンダアジャストモードでの設定*

・製品付属の「車速信号配線一覧表」[HONDA 2欄]に記載されている車種へお取り付けの場合は、③での表示をHndに、3秒待つと数値表示(70~130)に切り換わりますので、SETスイッチ (▼ダウン方向) またはMODEスイッチ (▲アップ方向) を押し設定したい数値に表示を合わせます。

・3秒間操作をしないと設定が完了し、自動的にリアル表示に切り換わります。

*ホンダアジャストモードでの設定を行うと、S2000以外の車種でリミッター解除時純正メーターが150km/h以上で止まります。



(例：アジャスト設定が106の場合)

故障と思われる前に

修理依頼なされる前に、次の項目をご確認ください。

症状	原因	確認
キーONで表示がでない。	キーON⊕12V配線の不良。 GNDの接続不良。	●赤コードの接触状態を確認する。 ●キーON⊕12Vに接続しているか確認する。(⇒2ページ【参考1】参照) ●黒コードの接触状態を確認する。 ●アースの取れる場所へ接続しているか確認する。
走行中、スピード表示が出ない。	車速信号入力 (SP) の接続不良。	●白コードの接触状態を確認する。 ●車速信号線 (図中SP) に接続しているか確認する。 ●緑コードを車輻ハーネス側に接続していないか確認する。 (本機が故障していないかは⇒2ページ【参考2】の方法にて確認する。)
スピード表示が純正メーターと比べ極端に違う。(2倍以上や半分以下など)	車速パルス設定の間違い。	上記「車速パルスを設定する」でパルスの設定を確認する。 注：マイナーチェンジ等でパルス数に変更される場合もありますので、純正メーターの表示に近い表示をするパルスで設定してください。
スピード表示が純正メーターと比べ多少ズれる。	純正メーターとの精度誤差の違い。	純正メーターには多少の誤差がありますので本機の故障等ではありません。 また、本機は表示を見やすくするため、減速表示を遅らせてあります。
エンジンチェックランプが点灯する。	リミッター解除信号の接続不良。	緑コードの接触状態を確認する。
SML-Vのスピード表示が加速中リミッター速度付近から変化しなくなる。	他製品でリミッター解除されている場所よりコンピューター側で白コードを接続している。	他製品よりも車輻ハーネス側で白コードを接続する。
他製品のスピード表示が加速中リミッター速度付近から変化しなくなる。	SML-Vの緑コードよりコンピューター側で他製品の車速信号線が接続されている。	SML-Vの白コード側 (車輻ハーネス側) で他製品の車速信号線を接続する。

基本的な操作方法と表示の見かた

キースイッチをONにします。Pivot (Pivot) 2回スクロール表示後、スピード表示に切り換わります。

SETスイッチを押す

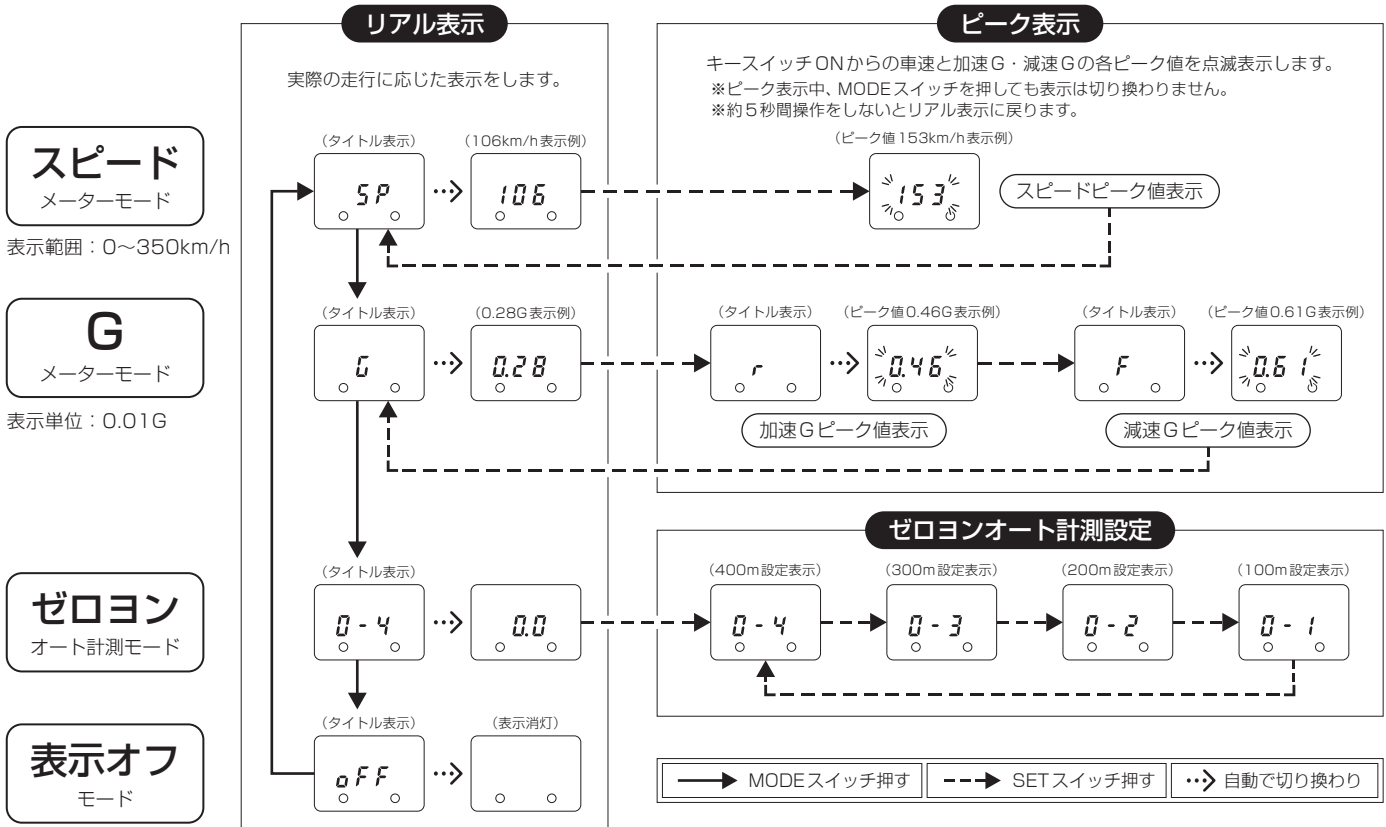
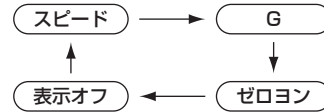
スピード・加速G・減速Gのリアル/ピーク値を切り換えます。



また、ゼロヨンオート計測の設定距離を変更します。

MODEスイッチを押す

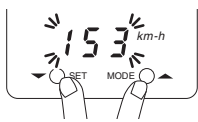
スピード/加速G・減速G/ゼロヨンタイム/表示オフの順で表示モードを切り換えます。



どの表示モードでキー OFF にしても、キースイッチ ON 直後は常にスピードのリアル表示となります。表示オフモードでも、リミッター解除機能は作動しています。

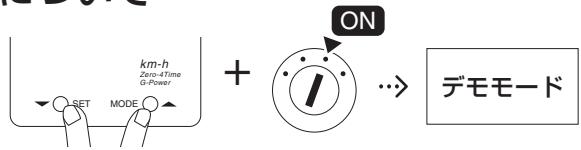
ピーク値をリセットする

ピーク表示中、SETスイッチとMODEスイッチを同時に押すとスピード・加速G・減速Gのすべてのピーク値がリセットされます。



デモモードについて

SETスイッチとMODEスイッチを同時に押しながらキースイッチをONにするとデモモードに切り換わります。※この操作をもう一度すると通常モードに戻ります。



ゼロヨンオート計測をする

- 計測をスタートさせたい場所でクルマを停止させます。
- リアル表示中、MODEスイッチを押していき、0-4を表示させます。
- SETスイッチを押していき、計測したい距離に表示を合わせます。(設定距離：400m / 300m / 200m / 100m)

- 2秒間操作をしないと表示が0.0に変わり、計測準備が完了します。※設定をやり直したい場合は再度SETスイッチを押します。
- クルマを発進させると自動的に計測が始まります。
- 設定した距離に到達した時点での時間が表示されます。

計測終了後、スイッチ操作をしないと計測データは消去されます。